

建築学科の学習支援システム

(学生の理解を助け、勉学意欲を増進し、学生の要望にも対応できる授業の支援システム)

【JABEE基準2.5(2)】

I. 学部としての取り組み

1. 入学前学力支援プログラム

2016年度までは、AO・推薦入学試験合格者を対象にe-Learning教材を提供し、入学前スクーリングにおいて確認テストを実施し、入学後の授業内容について説明している。2017年度からは、入学前スクーリングに外部講師を招き、講師による事前指導を受けた本学在籍学生をファシリテータとしたグループワーク等を行っている。

2. 学習支援室の開設

2006年度より学部全体の取り組みとして学習支援室が開設された。特に基礎学力についての個別の対応が可能なシステムとなっている。また、イングリッシュシャワーを開設して、ネイティブティーチャーによる英会話力のアップを図っている。

3. 近大UNIPAの利用

2009年度より、学生の成績、出席状況を一括管理する学生ポータルサイト「近大UNIPA」が導入され、各チューターの方で、学生の授業への出席状況、成績等がWebで簡単に参照できるようになった。これにより、欠席が多い学生には早めに連絡をとり、サポートすることが可能になった。また、保護者からの問い合わせにも、成績を参照しながら適切に対応できるようになった。2016年度より、IC出欠管理システムの導入により、出欠確認作業にかかる時間と労力の省力化が行われ、学生の授業への出席状況を速やかに把握できるようになった。また、近大UNIPAでは、大学や学部からの正式な連絡やお知らせ、例えば、休講・補講、教室変更、定期試験、成績、大学・学部主催のイベント情報、就職活動に関連する情報等、非常に重要な情報が通知される。

4. 成績不振学生に関する面談の実施

2014年度より学部全体の取り組みとして、留年が決定した学生、通算GPAポイントが1.50未満（2022年度より小数点2桁表記）の学生に対してチューターによる面談が義務づけられ、セメスターの初めに実施されている。面談結果は近大UNIPAで報告され事務部が管理している。これにより、成績不振学生への遺漏のない指導が可能となった。

5. TERACO LAB.の開設

TERACO LAB. (テラコ・ラボ) は、学生同士が交流しながら学びを深め合うことを目的として2021年度よりC館北3階に設置された。Active Learning Areaは、自由に利用可能な共同学習スペースCommons Spaceとアクティブラーニング教室Active Learning Spaceを融合したエリアとなっている。

II. 建築学科としての取り組み

1. 新入生研修会

毎年、学生と教員の交歓と学生同士の交流を通して、早期の勉学体制の支援を行っている。入学後、4月の第3週目に開催され、周辺の建築物や地域の視察を行った後、学外の宿泊施設で10人程度のグループに分かれて和紙と針金を用いた照明などを制作し、発表会を行っている。これらの研修を通して、新入生同士の交流、上級生や教員との交流を行うとともに、ものづくりや創作・プレゼンの楽しさを学んでいる。

2. 基礎ゼミ（フレッシュマンゼミナール）

第1セメスターの「基礎ゼミ（2022年度よりフレッシュマンゼミナール（2003年度より開始）から名称変更され総合科目として配当）」は、新入生を数名（7～8名）に分けて、各教員（チューター）とゼミナール形式で授業を行うものである。学生の履修指導や建築学の基礎的な事項を学ぶための導入的な教育の位置付けとしている。各チューターは、学生の履修に関する個別指導を行うとともに、教育上全般にわたって支援者としての役割を担っている。

3. 短期集中型の授業

学生の授業理解度の向上をめざして、中間テストと期末テストを実施し、多くの科目において、クォーター制に近い授業編成を行い、短期集中型の授業を試みている。

4. 少人数教育

建築技術の基礎を構成する資格試験等に必要となる専門科目については少人数クラスにより授業理解度の向上を実現するきめの細かい徹底教育を行っている。静定力学・同演習、材料力学・同演習が4クラス、不静定力学Ⅰ・同演習、不静定力学Ⅱ・同演習が3クラス（1クラスは再履修）、工学基礎科目、構造演習、構造設計Ⅰ・同演習が2クラスで行われている。また、建築設計演習Ⅱにおいても複数教員が別クラスで同じ演習を実施している。

5. (講義+演習)形式の授業

建築基礎学力を育成・支援する方法として、難易度の高い構造・環境系科目を中心に、講義の後、直ちに演習を行う2コマ続き（2単位）の（講義+演習）形式の授業を活用し、効率的に授業内容を理解させるようにしている。これにより授業理解度の向上を実現させている。

6. 繰返し型到達度試験の実施

建築基礎学力を育成・支援する方法として、「不静定力学Ⅰ・同演習」、「不静定力学Ⅱ・同演習」では、課題ごとに解き方を完全に習得するまで繰返し試験を行う繰返し型到達度試験を実施している。

7. 本学教員が執筆した独自のテキストの利用

基礎学力が必要となる力学授業（静定力学、材料力学、不静定力学Ⅰ、Ⅱ）では、必要な内容を徹底教育するため、2008年度より『はじめて学ぶ構造力学』（森北出版）をテキストとして活用している。また、構造演習では、構造設計の基礎を実践的に学ばせるため、2004年度より『Excelで解く構造力学』（丸善）をテキストとして活用し、2022年度よりさらに構造設計よりにバージョンアップした『Excelで解く構造力学第2版』（丸善出版）を活用する。また、2008年度より構造設計の概要や構造モデルの耐力を求める方法を解説した『建築構造設計・解析入門』（丸善出版）を構造演習や構造設計Ⅲ（2018年度までは建築振動学）の授業でテキストとして活用している。さらに、2022年度には『Excelで解く構造力学 3次元解析編』（丸善出版）が出版される予定で、これも、2023年度から構造演習や卒業研究などに活用する。

8. 建築設計教育での実務設計者の直接指導

「建築設計演習Ⅱ」および「建築設計演習Ⅲ」においては、非常勤講師として6名の現役の実務設計者を採用し、実践的な設計教育を行っている。また、インテリアデザインコースの主要な科目についても、同様の非常勤講師によって実践的な教育を行っている。

9. 建築設計教育での講評会の実施

「建築設計演習Ⅱ」および「建築設計演習Ⅲ」の設計課題においては、発表会と兼ねて、国内の著名な建築家を毎年4名程度招いて講演会および講評会を行っている。（1988年度より開始）

10. 国際交流プログラム

国際性を養うための学科独自の取り組みとして、欧米の大学との短期交換留学（2週間程度）を行っている。

11. TA制度の採用

TA（院生による授業補助者）制度（1997年度より開始）が、各演習科目に導入されている。これは、院生が授業や学生指導の一翼を担い、学生の学習を支援するものである。教員と学生との間に立ち、緊密なコンタクトを可能にしているとともに、院生自らの再理解を深めることにもなっている。

12. 4年生によるピアサポート

研究室の4年生が学生指導の一翼を担い、学生の学習を支援するものである。教員と学生との間に立ち、緊密なコンタクトを可能にしているとともに、学生自らの再理解を深めることにもなっている。不静定力学Ⅰ、Ⅱ・同演習、木造住宅設計、建築設計演習等、複数の演習科目で実施されている。

13. オフィスアワー

従来は、教員の自主的な活動として、学生への相談活動を多くの教員が実施していたが、2003年度より組織的な活動として、意図的に時間を設定し、学生にも公開しながら積極的に活動している。学生の授業の理解を深めるとともに、教員と学生との緊密なコンタクトを可能にしている。

14. 研究室対抗ソフトボール大会

4年次の年度初め（4月～5月）に、ゼミの学生間および学生と教員間の親睦を深めるために、ゼミ対抗のソフトボール大会を開催している。本大会は30年以上続く建築学科の伝統行事で、スポーツを通じてゼミの連帯感を育成し、卒業研究へのモチベーションを高めることに役だっている。